

製品名: Ob ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15086**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	LEP OB OBS
別名	Leptin (Obese protein; Obesity factor)
遺伝子 ID	3952.0
SwissProt ID	P41159
免疫原	AA 範囲: 10-50 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

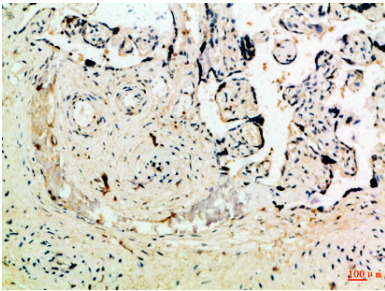
この遺伝子は、白色脂肪細胞から分泌され、体重調節において主要な役割を果たすタンパク質をコードしています。レプチン受容体を介して作用するこのタンパク質は、摂食抑制やエネルギー消費量の調節といったシグナル伝達経路の一部を形成し、脂肪量の一定

化を促進します。また、このタンパク質は内分泌機能も有し、免疫反応や炎症反応、造血、血管新生、創傷治癒の調節にも関与しています。この遺伝子やその調節領域の変異は、重度の肥満や性腺機能低下症を伴う病的肥満を引き起こします。この遺伝子は2型糖尿病の発症にも関連していることが示されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：LEPの欠陥は常染色体劣性肥満の原因となる可能性があります[MIM:601665]。機能：体脂肪蓄積量を制御するシグナル伝達経路の一部として機能する可能性があります。LEPレベルの上昇は、直接的または間接的にCNSに作用して、脂肪量の一定性を維持するための恒常性メカニズムの一環として、食物摂取を抑制したり、エネルギー消費を調節したりする可能性があります。、オンライン情報:レプチンエントリ、類似性:レプチンファミリーに属します。、サブユニット:SIGLEC6と相互作用します。、

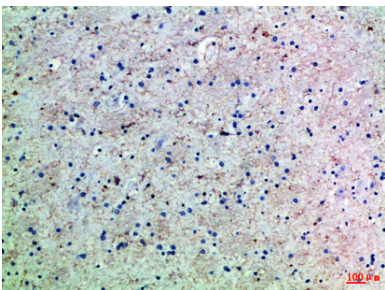
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;神経活性リガンド-受容体相互作用;Jak_STAT;アディポサイトカイン;

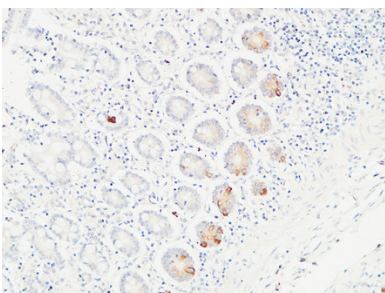
画像データ



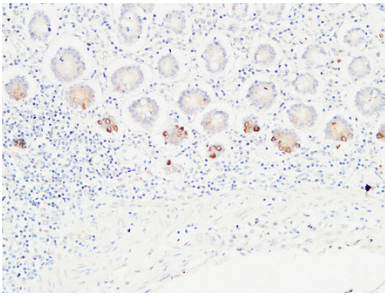
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



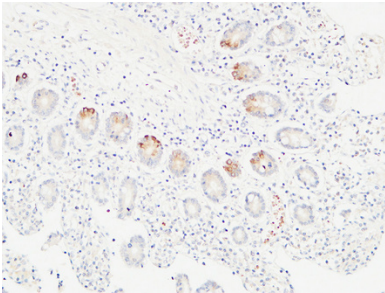
パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を1:100に希釈した(4°、一晚)。2、高圧高温EDTA(pH8.0)を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。